

テニスコートの横でひっそりと咲く冬桜。白い花が道行く人の目を引いている



佐賀スケッチ

毎週、本庄キャンパスに行くたびに気になる木がある。大学の付属図書館そばにあるテニスコートの東側にその木はある。最初に足を止めて近づいて見たのは昨年十月。その木は白い花を咲かせていた。桜の花に似た小さな花。梅のように枝にくっついて咲いている。何という木だろうかと毎週、花を見ていた

が、ちょうどそのころ、一昨年八月に福岡で起きた飲酒運転事故でかわいい子ども三人を亡くしたご夫妻が子どもたちを忘れないようにと秋に咲く「十月桜」を植えたというニュースを聞いた。テニスコートの横でひっそりと咲いている桜も十月桜だろうかと思っていたが、生来の好奇心

冬桜 キャンパス彩る白

今冬は、新年にかけて寒くなったとはいえ暖冬。そのせいで花が咲き続けているらしい。春に咲く花には花柄がつくという。花柄がつくと花が風に揺れて寒く、傷むので、冬に咲く時は花柄はつけないのだと宮脇先生に教えていただいた。

本庄キャンパスの正門から続く並木はラクウショウという。私はこれまでメタセコイヤとばかり思っていた。現在、葉は茶色になっているが、緑の時と風情が違ってこれも大好きな大学の風景である。鍋島キャンパスにある木では、葉の先が三つに分かれている唐カエデ。赤と黄色の葉が混ざり合う紅葉のころ、この木もとても美しい。不思議に思うのは本庄キャンパスには、高くそびえるフェニックスが何本もあること。

(佐賀大学理事・北島悦子)

【次回は2月15日に掲載します】